２０２３年１０月２９日　Ｎｏ．３６９１

先週の講壇から　　**〝石が生きる〟**

ペトロの手紙Ⅰ　２章１節～10節

聖句「この主のもとに来なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。」(2:8)

１．**《道の果て》**　映画『道』(1954年）のヒロイン、ジェルソミーナは貧困家庭から、大道芸人ザンパノに買い取られて、旅回りの暮らしです。頭も弱く器量も良くない彼女は、乱暴なザンパノから虐待を受けています。しかし、綱渡りの芸人から「神がお造りになった世では、この石ころだって何かの役に立っている」と教わり、希望を抱くのですが、ザンパノに置き去りにされ野垂れ死にます。数年後、年老いて衰弱したザンパノは自らの非道を悔いて男泣きに泣くのでした。

２．**《役立たず》**　「自分は何の役にも立っていない」と惨めな気持ちにさせられた経験はありますか。周囲の人間から虐待を受けたり、粗末に邪険に扱われたり、無視されたりして悲哀を味わったことはないでしょうか。「有益な人間」として、自他とも認められる人もいるでしょう。しかし、その価値付けは人間的なもの、有限なものです。「稼ぎがある」と思っている人は、稼げなくなった時に、「世話をしている」と思っている人は、他人の世話にならざるを得なくなった時に、「趣味に生きる」人は、心が動かなくなった時に、生きる価値を見出せなくなります。自分が「役立つ人間」と考える私たちは、ジェルソミーナを鞭で打つザンパノなのです。

３．**《生きる石》**　聖書では「石」は無価値な物の代表です。洗礼者ヨハネはアブラハムの血統を誇るユダヤ人に「こんな石ころからでも、神はアブラハムの裔をお造りになれる」と叱責しました。その言葉を受けて、サタンはイエスさまに「神の子なら、この石をパンに変えたらどうだ」と誘惑します。しかし、イエスさまは「人は神の言葉によって生きる」と答えられます。「ゲツセマネの祈り」の「私の思いではなく、御心が成れますように」に通じる御言葉です。「何事も神の御心次第」なのです。幸せで健康だから人生に価値があるのでしょうか。不幸せで病気に成ったら人生に価値は無いのでしょうか。それは人間の価値観です。しかし、幸せも健康も明日には失われるかも知れません。十字架に磔にされた主に、絶望した弟子たちも同じです。勝手に自分の期待や幻想を押し付けていたのです。私たちの本当の価値を知り、本来の価値を教えてくださるのは神さまなのです。

朝日研一朗牧師